

九州地方整備局
芦田義則企画部長



伊藤「九州圏広域地方計画」がスタートしたのですが、計画の内容はどのようなものになるのでしょうか？

芦田 この計画では、「安全で安心できる地域社会を作ろう」「都市や農村が自立していける地域を再生しよう」「活力のある地域社会を目指そう」といった、大きな3つの考え方を掲げています。その具体的な内容については、今年秋にスタートする「九州圏広域地方計画協議会」で話し合われることになりました。ちょうど今、そのための原案、素案を作る「九州圏広域地方計画」

九州全体の将来に どんな夢を描きたい？

私たちが豊かにそして安心して暮らせる九州の将来像を描く「九州圏広域地方計画」がいよいよ本格始動します。この計画はどんな考え方で進められていくのでしょうか。また、私たちは九州の将来像づくりにどう関わっていけばいいのでしょうか。定期モニターの伊藤律子さんへ、九州地方整備局の芦田義則企画部長へインタビューしていただきました。

レ協議会」が動き出したところです。伊藤 九州では、小学校の統廃合なども多く、とりわけ高齢化の問題が目立っているように感じます。「九州圏広域地方計画」では過疎化などについても検討されるのでしょうか？

芦田 人口が少ない地域をどう維持していくかについては、行政サービスの中でもインフラ整備の面でも、九州の将来像を描く上で大きな焦点になると思います。伊藤 農村や漁村の過疎化が進めば、都市で生活している私たちの「食」にも大きな影響が出てくるのではないかと、日頃から気にかかっていたのですが。

芦田 おっしゃるとおりです。九州の全ての地域の人たちが豊かな食生活を続けていくためには、農業や漁業が産業として生き残って

次世代のための九州を 真剣に考えていきたい

今回のインタビューをさせていただくまでは、九州が抱えている数々の課題がとても気にかかっていましたが、それらを解決していく方法や将来の可能性などについて何うことができます、とても有意義だったと感じています。私にも小学生の息子がいるので、子どもたちが大人になった時にどんな九州であってほしいかについて、真剣に考えていくつもりです。また、子ども自身にも民泊やグリーンツーリズムなどを数多く経験させ、農漁村との地域交流の大切さを考えてもらいたいと思っています。



定期モニター
伊藤律子さん
(福岡市在住)

FACE Monitor

その仕掛けの一つとして、都市生活者が週末に農漁村で過ごすなどの新しいライフスタイルも考えられているんですよ。九州では、都市と農漁村が距離的に近いので、実際に農漁村地域の強化や農業の維持に効果的に役立てられるのではないかと思います。

伊藤 私の知り合いにも、週末ごとに農村地域のご両親を手伝いに行っている方がいます。「九州圏広域地方計画」でも、私たち一人一人ができるかについて、いろんな検討をしていただけたらいいですね。

芦田 農山漁村のバックアップの他にも、近年めざましい発展を見せている東アジアに最も近いのは九州です。将来、貿易面での中核地域となっていく可能性も大いにあると考えられていますよ。

実際、九州にある自動車メーカーの工場での生産台数はぐんぐん伸びており、今後も東アジアとの経済交流拠点としての期待も集まっています。そうした将来像を実現するためには、高速道路など交通網の整備もますます必要になってくるでしょう。これから本格的に始まる「九州圏広域地方計画協議会」では、九州全体が一体となって発展していく方法を探っていくことになるわけですね。皆さんからの意見も広く募集する予定です。伊藤さんも「こうなればいいな」と思われる九州の将来像について、どんなアイデアを提供してください。

伊藤 なるほど、「九州圏広域地方計画」は、九州に暮らす私たちがみんなで描く、九州の将来像のことなんです。私もこれからは、どんな九州にしたいかを真剣に考えてみます。お話を伺って、九州の将来に大きな希望を持つことができました。